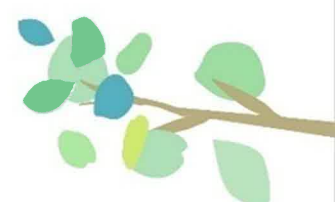




岐阜市民公園 再整備基本計画

～ 概要版 ～

2025年 3月



1 岐阜市民公園と再整備基本計画

本園は、1973年に開園した本市を代表する総合公園であり、豊かな自然環境に見て、ふれ、感じ、親しみ、楽しむことができる市内随一の公園です。

園内には、市内最大の面積を誇る芝生広場をはじめ、四季の移り変わりや草花を楽しむことができる里山や植物園、動物とふれあうことができる乗馬施設やドッグラン、野鳥や昆虫・野花などの希少生物を鑑賞することができるなど、自然に恵まれた立地と環境を有しています。

その一方で、本園は開園から約50年が経過し、公園施設の老朽化や未利用施設、樹木の老木化などの対策をはじめ、法改正や多様化する市民ニーズへの対応が必要となっています。

本計画は、これらの課題に対応し、一層の魅力向上を図るため、再整備基本計画を策定し、未来の公園の姿を分かりやすく市民の皆様にお示しするものです。



写真 芝生広場とメタセコイア並木

3 基本コンセプト



緑の中で “まるごと1日”

わくわく体験できる公園



岐阜の豊かな緑に包まれながら、「まるごと1日を過ごせる公園」の実現に向け、多くの皆様が、自然を五感で感じ、憩い、うるおい、楽しむことのできる公園へ再編します。

4 基本方針

- | | | |
|--|-----------------------------------|--|
| 
基本方針 | 1 自然に包まれながら
1日を過ごせる公園 | 森林、草花、水辺などの本園が有する広大な自然に恵まれた環境を活かした“まるまる1日過ごせる”空間を創出します。 |
| 
基本方針 | 2 五感で感じる公園 | 風、光、緑など、豊かな自然を五感で感じ、動植物とのふれあいや様々な野外活動が体験できる公園づくりを行います。 |
| 
基本方針 | 3 自然と融合した
新しい魅力の創出 | 「散策路」や「芝生広場」「ドッグラン」などの魅力あふれる施設と新たな施設が融合し、相乗効果が生まれる魅力たっぷりの公園づくりを行います。 |
| 
基本方針 | 4 持続可能な公園 | PPP/PFIの活用など、民間事業者をはじめとする各種事業者の参画を促し、持続可能な公園づくりを行います。 |
| 
基本方針 | 5 市民の暮らしを守る
安心・安全の防災拠点 | 本園は指定緊急避難場所及び広域防災拠点施設に指定されており、災害時における防災拠点としての機能を拡充します。 |

5 計画目標

本計画の目標は、再整備完了後の年間来園者数“40万人”を目指します。

なお、基準年は、新型コロナウイルス感染症蔓延前の平成29年度とします。

現況値
(平成29年度)

25万人/年

目標値
(再整備後)

40万人/年



2 再整備基本計画策定の経緯

本園は、岐阜市民公園として開設、2011年に隣接する畜産センターと統合し、岐阜市畜産センター公園となりました。その後、法改正や社会情勢等の変化、老朽施設や未利用施設に対応するため、2025年に再整備基本計画を策定しました。

2024年 岐阜市グリーンインフラ計画 策定

2023年 岐阜市みどりの基本計画 改定

2017年 都市公園法,都市緑地法 改正

1972年

都市計画決定

総合公園「岐阜市民公園」として都市計画決定をしました。翌年から整備工事が始まりました。

1973年

総合公園開設

芝生広場の整備が完了し、「岐阜市民公園」として開設しました。(開設面積：約18ha)

2011年

公園区域拡張

隣接する畜産センターと統合し、「岐阜市畜産センター公園」として開設しました。(開設面積：約26ha)

2018年

豚熱発生

畜産エリアで飼養していた家畜から豚熱が発生し、特定家畜伝染病の対象となる家畜の飼養を取止めました。

2025年

基本計画策定

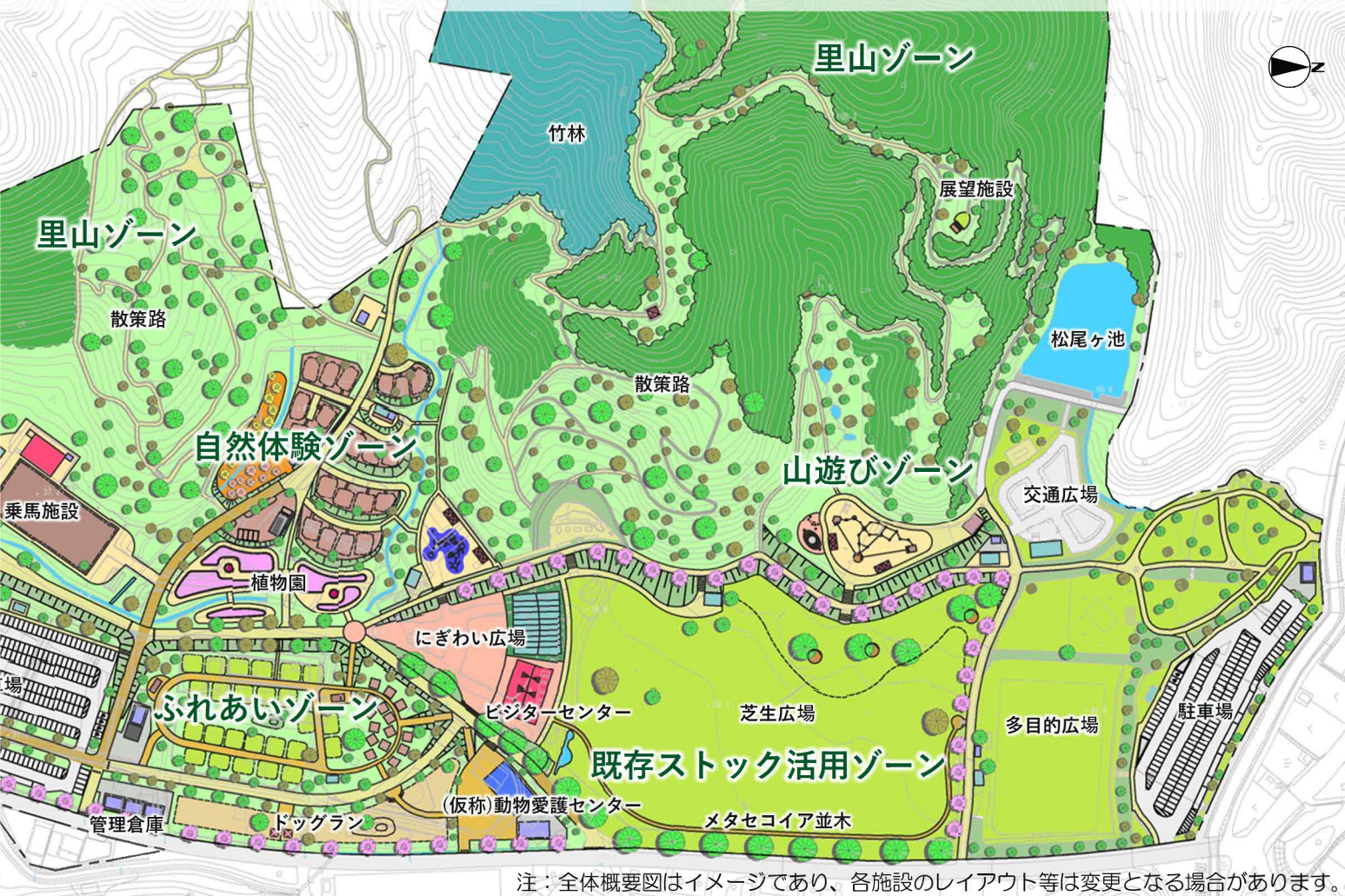
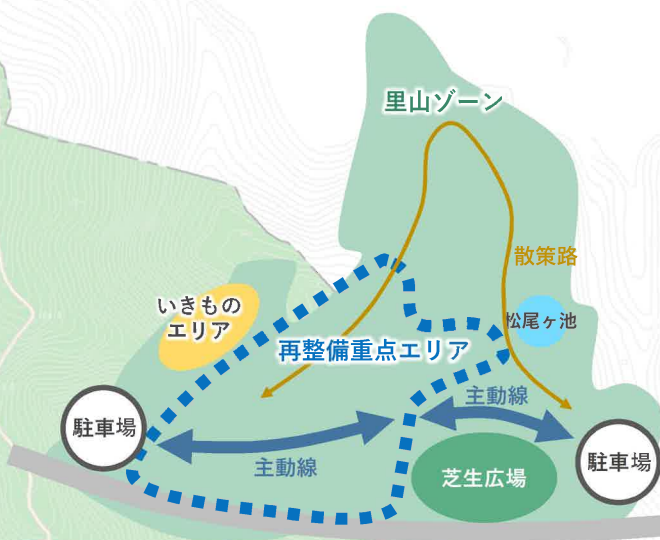
岐阜の豊かな緑に包まれながら「まるごと1日過ごせる公園」の実現に向け、再整備基本計画を策定しました。

6 再整備基本計画の全体概要

本計画は、豊かな自然に恵まれた環境を最大限に活かした、緑の中で過ごせる空間整備を提案しています。

その中で、公園施設の老朽化や未利用施設があるエリアを再整備重点エリアとし、新しく整備する施設と既存施設、里山を園路や散策路でつなぐことで、自然を核とした広大な緑の空間が一つの施設として融合し、それぞれの施設が相乗効果を発揮することを目指しています。

五感で感じる新たな公園を市民の皆様にご堪能いただけるよう、自然と共生する社会の実現に向け、取り組みます。



注：全体概要図はイメージであり、各施設のレイアウト等は変更となる場合があります。

7 ゾーン別計画概要

本公園は、5つのゾーンに区分して再整備を行います。以下、再整備の主となる4つのゾーンの計画概要について示します。

1つ目は、「自然体験ゾーン」。里山のふもとに広がる傾斜地を利用し、キャンプや野外活動など、自然の中で様々な体験を楽しむことができるエリアとします。

2つ目は、「ふれあいゾーン」。平坦な地形を活かし、誰もが気軽に野外活動ができるエリアとしています。また、市民アンケート調査において、要望が最も高かった「家畜伝染病の影響が低い動物」とふれあうことができる「(仮称)動物愛護センター」やドッグランを併設することにより、いきものとふれあえる空間を創出します。

3つ目は、「山遊びゾーン」。里山の中腹に開けた貴重な空間を様々な遊びが体験できるエリアとしています。既存施設である芝生広場や交通広場と連携し、自然の中で遊びと体験を堪能できる空間を創出します。

4つ目は、「里山ゾーン」。四季の移り変わりや野鳥、昆虫、草花など、本園が有する豊かな自然を堪能することができるエリアです。自然体験ゾーンや山遊びゾーンからは幾多の散策路が里山に通じています。いつでも自然の中に溶け込める里山整備を行います。

市民アンケート調査

期 間：2021年10～11月
調査数：市民 2,000人を対象
回答者：1,060人



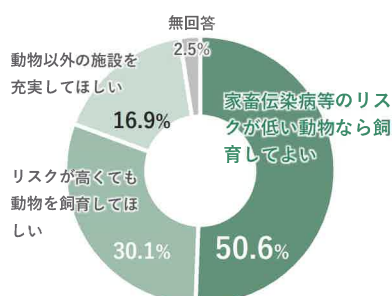
本計画に皆様のご意見やご要望を反映するため、市民の皆様にはアンケート調査を行った結果を示します。

再整備で公園に望む施設

- 第1位 芝生広場や飲食施設などの
憩い・やすらぎ空間
- 第2位 花畑や動物、自然などの
自然・いきもの・ふれあい空間
- 第3位 子どもが自由に遊べる
アクティビティ空間
- 第4位 バーベキューやキャンプ場などの
野外体験空間

動物の飼養に関する意見

市民の過半数以上が「家畜伝染病等のリスクが低い動物なら飼育してよい」と回答しています。



自然体験ゾーン

主な整備内容

- ・キャンプ場や野外活動の場の整備
- ・山麓部の環境保全および整備
- ・休養・便益施設の整備
- ・里山ゾーン、ふれあいゾーンを繋ぐ園路整備
- ・老朽施設の更新、既存ストックの再編



EYE_1 キャンプ場のイメージ



ふれあいゾーン

主な整備内容

- ・野外活動の場の整備
- ・自然や地形を活かした植物園の整備
- ・(仮称)動物愛護センターの整備
- ・ドッグラン等や広場などのふれあい施設の整備
- ・老朽施設の更新、既存ストックの再編



EYE_2 デイキャンプ、野外活動、ドッグランのイメージ



里山ゾーン

自

乗馬施設

南

西



岐阜市民公園再整備事業のイメージ



山遊びゾーン

主な整備内容

- ・自然や地形を活かした遊び場の整備
- ・里山中腹部の整備
- ・休養・便益施設の整備
- ・里山ゾーンへ繋がる園路整備
- ・老朽施設の更新、既存ストックの再編



EYE_3 中腹部 遊び場のイメージ



里山ゾーン

主な整備内容

- ・里山の自然やいきものの保全
- ・散策路や展望施設の整備
- ・休養・便益施設の整備
- ・急傾斜地の対策
- ・老朽施設の更新、既存ストックの再編



EYE_4 里山全体のイメージ

8 その他の計画概要



既存ストックの活用

芝生広場や交通広場、園内を流れるせせらぎ、遊水池等の既存ストックを再編・利活用することにより、更なる魅力を引き出します。



拠点施設の整備

各ゾーンが園路や散策路で結びつくことで、広大な緑の空間を形成し、機能を発揮するため、園内に中枢を担う拠点施設を整備します。



駐車場計画

本園の利用者は9割以上の方が車で来園されます。公園北側と南側の入口に駐車場を集約し、円滑に車が駐車場に流入できるように計画をします。



動線計画

園路や散策路は各ゾーンを繋ぐ重要な機能を担います。歩きやすく、分かりやすい、安全・安心・快適な動線づくりを計画します。



サイン計画

誰もが「見やすい」「分かりやすい」を基本方針とし、周辺景観との調和やデザインの統一化などに配慮したサイン計画をします。



ユニバーサルデザイン

誰もが快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した公園づくりを行います。



景観計画

恵まれた自然や緑豊かな里山、四季を感じる環境など、本園が有する魅力を活かし、周辺環境や景観と調和した公園づくりを行います。



防災機能の強化

本園は、広域防災拠点施設や指定緊急避難場所に指定されています。防災施設の機能強化や避難場所、救助活動拠点となる公園づくりを行います。

9 グリーンインフラの取組

本園は、「岐阜市みどりの基本計画」において「緑の拠点」に位置付けています。本園は、緑、水、土、生物などの豊かな自然環境を有しており、これらが有する機能を効果的に活用することで、良質な生活空間の形成や魅力的な都市空間の形成、防災・減災・国土強靱化、持続可能で魅力ある社会の実現をはじめとする様々な効果が期待できます。

本事業においても、様々な社会課題の解決に寄与するグリーンインフラの取組を推進し、ネイチャーポジティブやカーボンニュートラル、グリーントランスフォーメーション、Eco-DRR、SDGs、Well-beingなどを目指しながら「自然と共生する社会」の実現に向け、取り組んでいきます。



図 グリーンインフラのイメージ（出典：岐阜市グリーンインフラ計画）

10 持続可能な開発目標 (SDGs)

国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。

公園緑地の整備方針を示した「岐阜市みどりの基本計画」においてもSDGsの考え方を取り入れた緑を活用したまちづくりの方針を示しており、本事業においても持続可能な社会基盤の実現に向け、取り組んでいきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



11 管理・運営方針

効率的かつ効果的な管理・運営は、本園の魅力を一層高め、大幅な来園者数や収益の増加を期待することができます。そのためには、民間事業者やNPOなどの各種団体との連携や協働が重要であり、民間の資金やノウハウを活用し、公共施設の整備等の効率化や公共サービスの水準の向上を目指していくことが必要となります。

本園においてもPPP手法を積極的に導入し、民間事業者が有する技術能力を活用することにより、効率的かつ効果的な公園整備と管理・運営体制の構築を検討します。

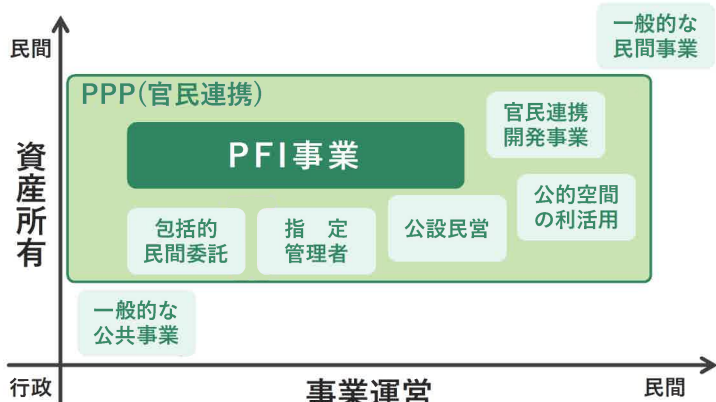


図 PPP手法の概念図

PPP事業方式とは - Public Private Partnership -

行政（官）と企業・大学・市民などの組織（民）が連携し、それぞれの強みを活かすことによって、より効率的で有効な公共サービスの提供を実現し、地域の価値や住民満足度の最大化を図る取り組みです。地域全体の効用を高めるために、「人材」「モノ」「資金」「情報」などの経営資源を活用した市民サービスを提供します。

項目	整備方針
BTO方式 Build Transfer Operate	民間事業者が資金を調達、施設を建設し、施設の完成後に所有権を公共に移転します。その後、維持・管理・運営を同じ事業者任せにします。
BOO方式 Build Own Operate	民間事業者が施設を建設して維持・管理・運営を行い、契約期間終了後に施設を解体・撤去して事業を終了させます。
BOT方式 Build Operate Transfer	民間事業者が施設を建設して維持・管理および運営を行い、契約期間の終了後に公共へ施設の所有権を移転するものです。
RO方式 Rehabilitate Operate	民間事業者が施設を改修した後に、その施設を管理・運営する方式です。施設の所有権は公共のまま移転しないのが一般的です。

12 再整備計画の進捗管理

本計画を推進していくために、Plan(計画)、Do(実行)、Check(点検)、Action(改善)の4サイクルで計画を推進します。本事業は、各種調査から始まり、造成工事などの基盤整備から全体施設計画、各施設の基本・実施設計、工事など、完成までに時間を要することとなります。

再整備を進めていく上では、社会情勢や周辺環境、市民ニーズ等の変化に柔軟に対応する必要があるため、事業の進捗管理を適宜行い、魅力ある公園づくりに取り組んでいきます。

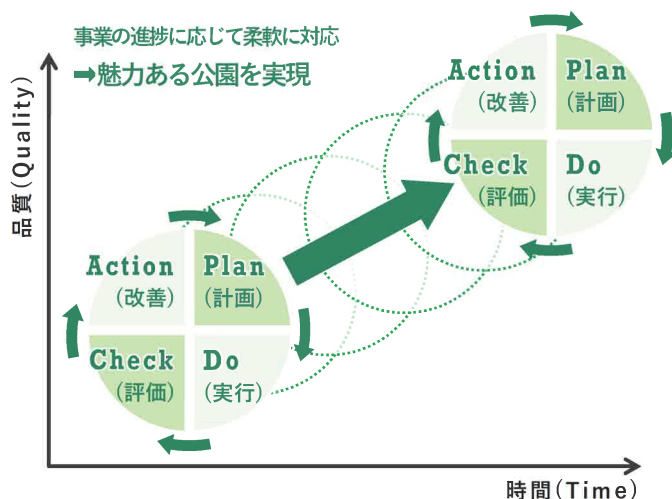


図 PDCAサイクル

13 再整備事業のロードマップ

